

メディアインパクト調査 報告書

於：アフリカンフェスタ2008会場

分析・報告者：山崎瑛莉

実施・協力者

Ouattara Amadou、飯島卓也、石黒さくら、石田里沙、
上杉恵理子、田中美結、田端春奈、田端麻美、天馬千穂、
寺澤雪江、二上昌子、浜中咲子、宮崎佳代子

アフリカ理解プロジェクト

<http://africa-rikai.net>

AFRICA RIKAI PROJECT

アフリカ理解プロジェクト（メディアインパクト調査）

目次

. 調査概要	2
1. 調査目的	2
2. 調査対象・方法	2
. 回答者基本情報	3
1. 年代	3
2. 性別	4
3. 職業	4
4. 国籍	4
5. 渡航経験	5
. アフリカを題材とした映画・テレビ番組について	7
1. 視聴有無	7
2. 視聴内容	7
3. アフリカへの関心の変化	10
4. 映画・テレビ番組を観たことによる行動	13
5. アフリカを題材とした映像に対する期待・要望	17
. 考察 分析結果を通して	22
. 調査実施・協力者	24
【参考】 本調査で取り上げた映画・テレビ番組詳細	24

・調査概要

実施場所: アフリカンフェスタ 横浜赤レンガ倉庫

実施日時: 2008年5月18日(土)・19日(日)

調査対象: アフリカンフェスタ 来場者

調査目的: アフリカを題材とした具体的な視聴覚素材について、対象者の視聴の有無や関心の方向性によってそのインパクトを調査すること。

調査方法: 15名の日本人の調査者による、日本語・英語のどちらかでアンケート式調査

有効回答: 152

分析者 : 山崎瑛莉

1. 調査目的

アフリカを題材とした映画・テレビ番組は近年増加傾向にある。2007年には、アカデミー賞受賞作品も含めた8つの映画が公開された。また、テレビ番組においても、世界遺産に着目されるほか、ドキュメンタリーやバラエティー番組の舞台としてアフリカが取り上げられている。この背景には、貧困や難民、そして環境などの地球的諸課題がアフリカに集積していることが認識されてきたことや、「未知の地」としてのアフリカへの興味・関心が高まっていることが考えられる。こうした状況の中で、アフリカはどのような見方をされているのだろうか。また、人々はこうした映像を見て、何を感じているのだろうか。アフリカ理解プロジェクトの今回の調査は、これらの疑問から「アフリカを題材とした具体的な視聴覚素材によるインパクトを調査する」ことを目的とした。

その調査視点は、以下3点である。

1. アフリカを題材とした映画・テレビ番組の視聴有無
2. 映像を視聴したことによる関心の変化・内容・指向性
3. 映像を視聴したことによる行動の変化

これらの項目に重きをおいて、調査を実施した。

2. 調査対象・方法

調査対象は、2008年度アフリカンフェスタへの来場者である。今年は、このフェスタ直後に予定されていた「東京アフリカ開発会議(TICAD)」の開催が横浜であったため、フェスタも従来の日比谷公園から横浜赤レンガ倉庫前での実施へと変更された。来場者の多くは、アフリカンフェスタを事前に知っており、そのため本調査の結果にもそれが影響している部分がある。しかし、この地域はもともと一般の観光客も多く、また他のイベントも開催されていたため、アフリカンフェスタ目当てではない人々も多く来場していたことは注目すべき点である。

調査は、男女・年齢・国籍問わず、日本語・英語によるアンケート方式で実施した。調査者はコートジボアール人1名、日本人12名の計13名である。調査票は、1日目はA4用紙2枚ひと組で用意し、2日目は、前述の調査票以外にA3用紙にまとめて印刷したものを追加した。調査票は、回答者の基本情報を問う5項目と、「アフリカを題材とした映画・テレビ番組について」問う5項目に自由記述を加えた

計 11 項目で構成されている。回答者には選択・記述で答えてもらい、調査者との会話で得られた情報はそれぞれのアンケート用紙にメモをし、調査分析に役立てた。アフリカでも多くの国で使用されているフランス語は、今回の調査では用いていない。

本調査は日本におけるアフリカを題材とした映像に焦点をあてたため、アフリカ諸国の方々をはじめとする外国人の方々の回答が求めにくかったといえる。日本におけるアフリカ映像のあり方を問うものとしては、アンケート自体に改良が必要であり、その点は次の機会への課題としたい。また、本調査は、先に述べたように地域性から一般の人が来場する可能性もあるものの、アフリカンフェスタに期待をもって来場された人が対象となっているため、日本全体の傾向結果ではないということをあらかじめお断りしておく。

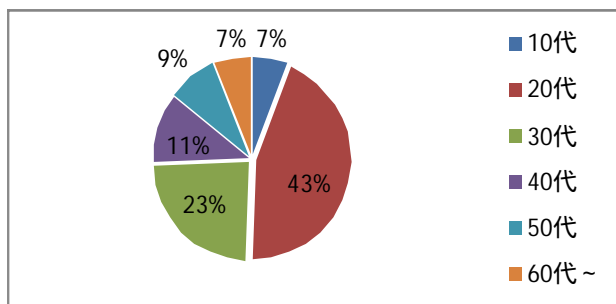
・回答者基本情報

1. 年代

20代から30代が多く、全回答者中約70パーセントを占めた。

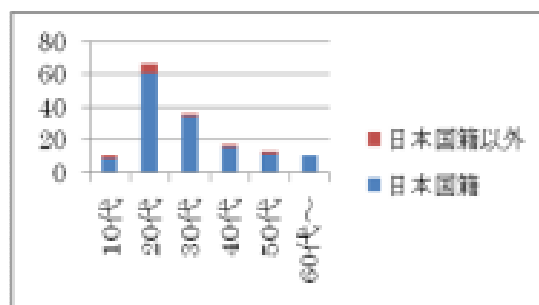
152回答中の内訳は、10代(10)、20代(66)、30代(36)、40代(17)、50代(13)、60代以上(10)である。

<図 1> 回答者年代



また、日本国籍以外の人数は13名で、年代は20代(5)が一番多く、10代・30代・40代・50代がそれぞれ2名と続いた(4. 国籍参照)。

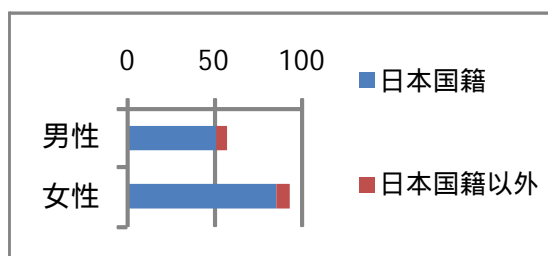
<図 2> 回答者年代(国籍別含む)



2. 性別

女性が 95 名、男性が 57 名と、女性のほうが多い。日本国籍以外では、男性(6)、女性(7)とほぼ同比率である。全体で女性が多いという傾向は、2006 年におこなわれた『ほっとけない、世界の貧しさキャンペーン』インパクト調査(1)に引き続き見られるものである。

<図 3> 男女別数(日本国籍以外数含)



1 『ほっとけない、世界の貧しさキャンペーン』インパクト調査

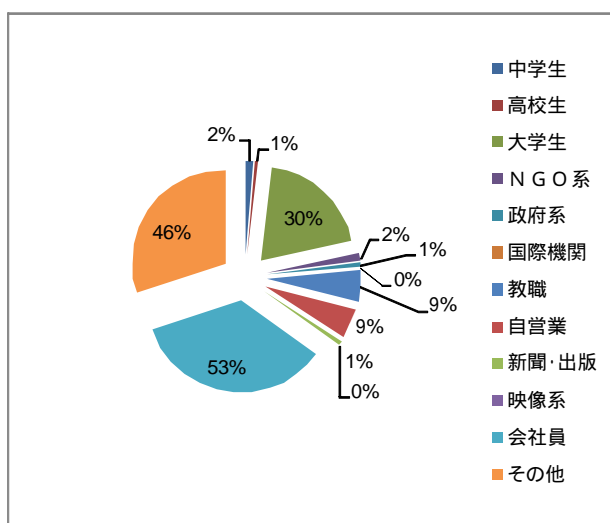
2006 年にアフリカ理解プロジェクトがおこなったアンケート調査。アフリカンフェスタの来場者を対象に、「ほっとけない、世界の貧しさキャンペーン」のこれまでのインパクト(認識度、参加度、評価、今後の方向性)調査を実施した。

参考URL: アフリカ理解プロジェクト 調査報告 <http://africa-rikai.net/teachers/reports.html>

3. 職業

会社員が 53 名と最も多く、全体の 53%を占める。次いで「その他」が多く、その 46 名の中には主婦、パート、事務職などがあつた。一方で、国際公務員や映画関係者からの回答は得られなかったが、メディアに対してより一般的な視点に立った結果をみることができるといえるだろう。中学生や高校生は合わせて 3 名と少なく、アフリカンフェスタ自体への参加者の偏りもあるのではないかと推測される。

<図 4> 職業内訳

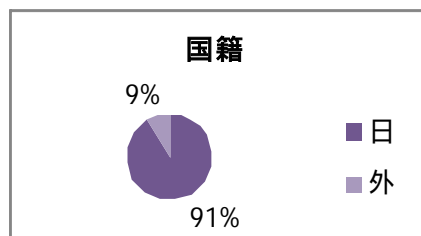


4. 国籍

日本人が 139 名、日本人以外が 13 名という結果であった。日本国籍以外の内訳は、アフリカ州 7

名、欧州 3 名、アジア州 3 名である。滞在理由は「その他」が多く、結婚や NGO 活動という回答がみられた。アンケート内容は日本における視聴覚素材のインパクト調査を目的としていたため、日本人以外に回答を求めにくいという点は、日本国籍以外の回答者数の少なさの原因と考えられる。

<図 5>



(1) 国籍

日本人国籍以外の回答者である 13 名の中ではアフリカ州出身者が最も多い。地域は西アフリカがやや多かった。

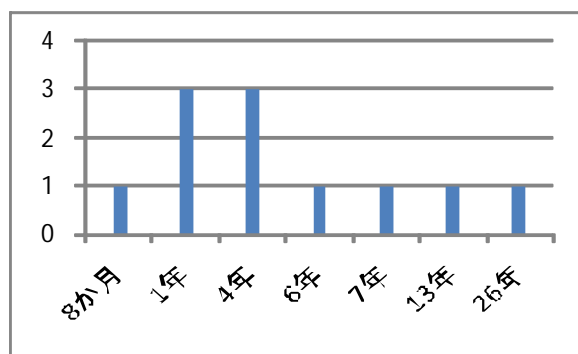
<表 1>

アフリカ(7)	ウガンダ、エチオピア、カメルーン、コートジボワール、ナイジェリア(3)
アジア(3)	インド、韓国(2)
ヨーロッパ(3)	ドイツ、フランス、ロシア

(2) 滞在期間

日本国籍以外の回答者の滞在期間は、8 か月から 26 年と幅が広い(不明 1)。その理由は勉学(2)、仕事(2)、その他(5)である。10 年以上の長期滞在者は日本人との結婚が理由であった。

<図 6> 滞在年数



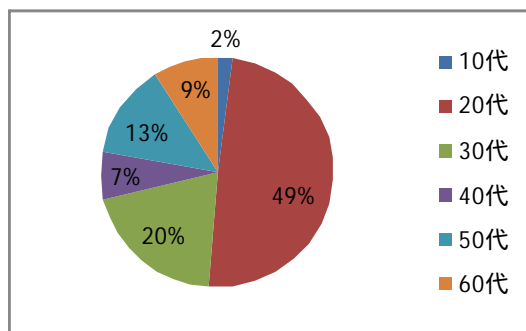
5. アフリカ渡航経験

アフリカ州への渡航経験ある人は 45 名と、約 30%であった。年代別では、20 代が 22 名と約半数を占め、その後 30 代、50 代と続いた。渡航地域はケニアやタンザニアといった東アフリカ地域がもっとも多く、次いでエジプト、南アフリカなどがあげられた。渡航理由は「観光」が 21 名、「その他」が 12 名、「勉強」が 7 名、「仕事」が 5 名であった。「その他」には「ボランティア」という回答が 6 名と半数を数え、「ボランティア」がアフリカへの渡航機会への要素の 1 つとなっていることが伺える。

(1) 年代別渡航経験

全渡航経験者 45 名中約 49%が 20 代である。10 代の渡航経験者はナイジェリア出身者であり、日本出身者の渡航経験者は 20 代以上であった。

<図 7> 渡航経験者 内訳



(2) 渡航期間/渡航理由

渡航期間は 3 日から 4 年まで幅広いが、「不明」を除いて 2 週間から 1 か月未満が 10 名ともっとも多い。また、渡航理由は「観光」が 21 名と最多である。年単位の滞在経験者 8 名の内訳は、仕事(5)、ボランティア(2)、結婚(1)の順であった。

(3) 渡航先

渡航先ではケニアが 13 ともっとも多く、次いでタンザニア(9)、南アフリカ(6)であった。

<図 8> 渡航先



. アフリカを題材とした映画・TV番組について

1. 視聴の有無

アフリカを題材とした映画・テレビ番組の視聴有無は、全体で「有」が 142 名と回答者の約 95%、「無」が 10 名と約 5%であった。

2. 視聴内容

項目は、アカデミー賞受賞などで話題になった 2007 年の作品等を中心に、映画 13 本(うちアニメ映画 2 本)、一般の人々が視聴可能な公共放送局と民間放送局のテレビ番組 4 本、計 17 本にくわえ、「その他」を含め 20 項目を設定した。回答は複数可としたため、結果の合計数は延べ数である。

<表 2>は、選択された数の述べ数と、全選択数に対する項目別の割合である。映画はアニメ映画の『ライオンキング』が最も多く選択された。そのあと『ホテル・ルワンダ』、『ブラッドダイヤモンド』と続く。『ホテル・ルワンダ』は、一般からの上映希望活動により公開されたもので、その活動が社会的に話題性をもったことが影響していると考えられる。また、『ブラッドダイヤモンド』はハリウッドの有名俳優がキャストになったことで関心を高めたと推測される。『輝く夜明けに向かって』や『約束の旅路』は、2007 年上映と時期を上記 2 作品とほぼ同じくするも(項末(映画情報詳細)参考)、視聴者数はそれぞれ 2 名、4 名と少なかった。テレビ番組は、『世界ウルルン滞在記』が約半数と最も多く、『NHK 世界遺産』39%、『あいのり』28%と次いでいる。

<表 2> 全体 視聴の合計対比

名称	選択数	割合
ホテルルワンダ	46	30%
ツォツイ	17	11%
輝く夜明けに向かって	2	1%
約束の旅路	4	3%
ブラッドダイヤモンド	32	21%
遠い夜明け	6	4%
ルワンダの涙	15	10%
母たちの村	8	5%
ダーウインの悪夢	11	7%
ナイロビの蜂	19	13%
ラストキング・オブ・スコットランド	10	7%
ライオン・キング	50	33%
キルクと魔女	12	8%
NHK 世界遺産	59	39%
世界ウルルン滞在記	79	52%
NHK BS - hi特集	23	15%
その他ドキュメンタリー	28	18%
あいのり	43	28%
その他バラエティ	4	3%

(1) 視聴映画・番組

) 年代別結果

映画については年代による違いはほとんど見られなかったが、テレビ番組については、10代～

30代と、40代～60代以上の間に違いがみられた。前者の視聴は民間放送局によるプログラムが一番多く、後者のそれは公共放送局によるプログラムであった。なお、表中の「合計」はその年代がすべての項目を通して選択した述べ数である。

<表 3> 年代別 映画・テレビ番組視聴順

【映画】				
	1	2	3	合計
10代	ライオンキング(5)	ホテルワルンダ(4)	ブラッドダイヤモンド(2)	16
20代	ライオンキング(29)	ホテルワルンダ(20)	ブラッドダイヤモンド(17)	106
30代	ホテルワルンダ(15)	ライオンキング(8)	ブラッドダイヤモンド(6)	67
40代	ライオンキング・ホテルワルンダ・ブラッドダイヤモンド(5)			29
50代	ライオンキング・その他(3)		キルクと魔女(2)	12
60代	その他映画以外すべて同数(1)			11

【TV】				
	1	2	3	合計
10代	世界ウルルン滞在記(5)	NHK世界遺産(4)	BShi・その他ドキュメント・あいのり	20
20代	世界ウルルン滞在記(42)	あいのり(30)	NHK世界遺産(21)	112
30代	世界ウルルン滞在記(18)	NHK世界遺産(12)	他ドキュメント(7)	50
40代	NHK世界遺産(5)	世界ウルルン滞在記・他ドキュメント(4)		17
50代	NHK世界遺産(9)	世界ウルルン滞在記(5)	その他(3)	23
60代	NHK世界遺産(8)	世界ウルルン滞在記・BShi(4)		19

) 男女別結果

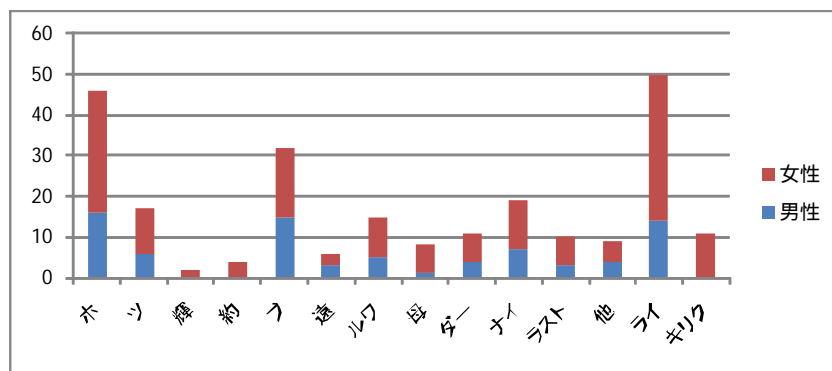
映画は選択順に違いがあるものの、上位3位までの項目は同じであった。一方、テレビ番組のほうはまったく同一順位であった。なお、表5のパーセンテージは、男女それぞれの選択述べ数に対して、各項目がどれだけ選択されているかという割合である。

<表 4> 男女別 映画・テレビ番組視聴順

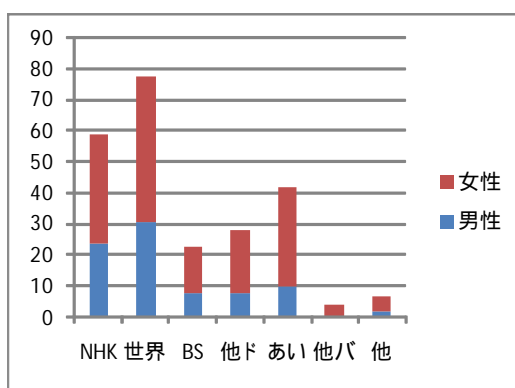
【映画】				
	1	2	3	計
男性	ホテルワルンダ(16)	ブラッドダイヤモンド(15)	ライオンキング(14)	79
女性	ライオンキング(36)	ホテルワルンダ(30)	ブラッドダイヤモンド(17)	162

【TV】				
	1	2	3	計
男性	世界ウルルン滞在記(31)	NHK世界遺産(24)	あいのり(10)	83
女性	世界ウルルン滞在記(47)	NHK世界遺産(35)	あいのり(32)	158

<図 8> 男女別 映画視聴



<図 9> 男女別テレビ番組 視聴



<表 5> 男女別 映画・テレビ番組視聴の合計数対比

名称	男性		女性	
	選択数	割合	選択数	割合
ホテルルワンダ	16	20%	30	19%
ツォツイ	6	8%	11	7%
輝く夜明けに向かって	0	0%	2	1%
約束の旅路	0	0%	4	2%
ブラッドダイヤモンド	15	19%	17	10%
遠い夜明け	3	4%	3	2%
ルワンダの涙	5	6%	10	6%
母たちの村	1	1%	7	4%
ダーウィンの悪夢	4	5%	7	4%
ナイロビの蜂	7	9%	12	7%
ラストキング・オブ・スコットラン	3	4%	7	4%
その他	4	5%	5	3%
ライオン・キング	14	18%	36	22%
キリクと魔女	1	1%	11	7%
NHK 世界遺産	24	29%	35	22%
世界ウルルン滞在記	31	37%	47	30%
NHK BS - hi特集 ()	8	10%	15	9%
その他ドキュメンタリー	8	10%	20	13%
あいのり	10	12%	32	20%
その他バラエティ	0	0%	4	3%
その他	2	2%	5	3%

正式名: 「BS世界のドキュメンタリー<シリーズアフリカ>」

(2) その他の視聴映画・テレビ番組の内容

選択項目「その他」の内容には、以下のようなものがあった。

<表 6> 選択肢外 視聴内容

【映画】	【TV】
名もなきアフリカの地で	BBC (2)
アフリカの女王 (2)	CNN (2)
カサブランカ	NHK特集「ジンバブエ」
シネマアフリカ作品 (2)	どうぶつ奇想天外 (2)
	ニュース番組 (2)

映画では『カサブランカ』(1942)や『アフリカの女王』(1951)など、クラシック作品があげられたほか、『名もなきアフリカの地で』(2001)といった比較的新しい作品もあった。「シネマアフリカ」とは、「アフリカ映画に関心を持つ有志による非営利団体」(2)であり、2007 年にはルワンダの映画が 8 本上映されている。2008 年は、このアフリカンフェスタ直後にイベントが予定されており、回答者の中には参加する意思のある方がいた。テレビ番組としては、報道番組でアフリカが特集されたものがあげられていた。

2 参考URL:シネマアフリカ <http://www.cinemafrica.com/>

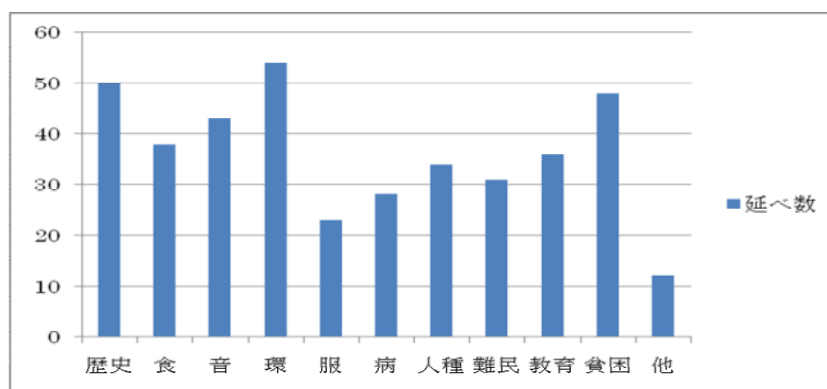
3. アフリカへの関心の変化とその内容

アフリカを題材とした映画やテレビ番組を観ることにより、アフリカに対する関心が高まったか否か、また、高まったとすればどのような内容であるか、ということについて問うた。アフリカに対する関心は、133 名つまり約 87%の人が高まったと答えており、高まらなかったという人の 19 名を大きく上回っている。その内容は、貧困や飢餓といったアフリカが抱える課題や食や音楽といった文化にわたる項目を提示したところ、「環境」がもっとも多く、次いで「歴史」「貧困」という結果となった。また、関心が高まらなかったと答えた理由に、「自分がどうにかできる問題ではない」というものがあった。

<表 7> 関心内容 選択述べ数

項目	選択数	項目	選択数
歴史	50	人種	34
食文化	38	難民	31
音楽	43	教育	36
環境	54	貧困	48
服飾	23	その他	12
病	28		

<図 10> 関心内容 選択述べ数



(1) 年代別関心内容

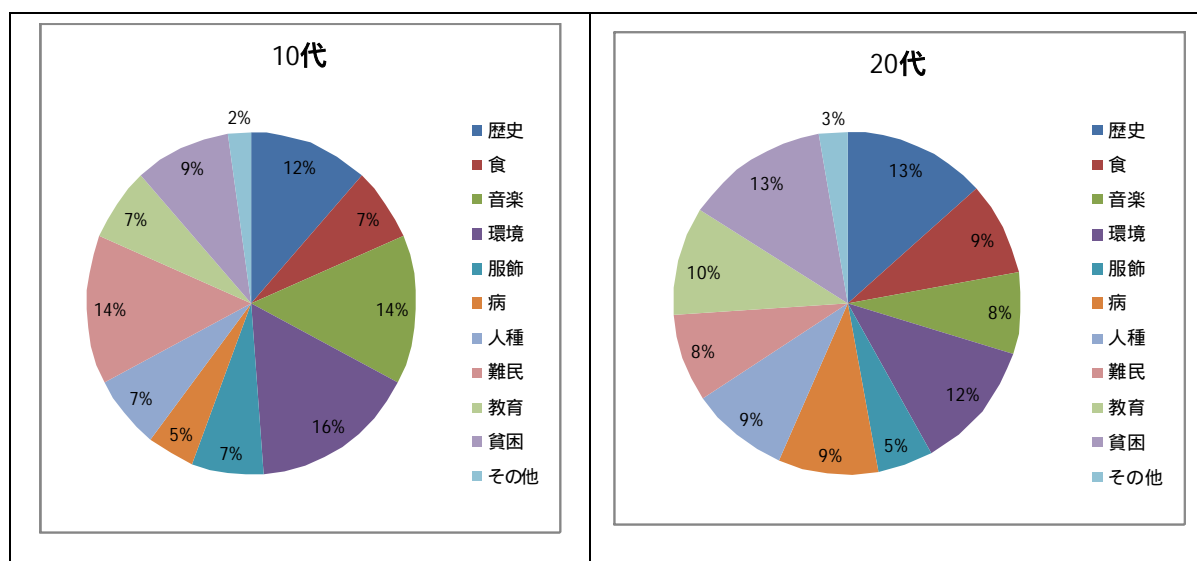
年代別でみると、最多選択順は次のようになった(表)。どの年代でも「環境」が上位3番目までには入っている。回答者数の最も多い20～30代は全体的に「環境」や「貧困」の選択数が多い。映画やテレビ番組には、テーマとして設定されていなくとも、こうした内容を読み取ることができる映像が含まれていると考えられる。

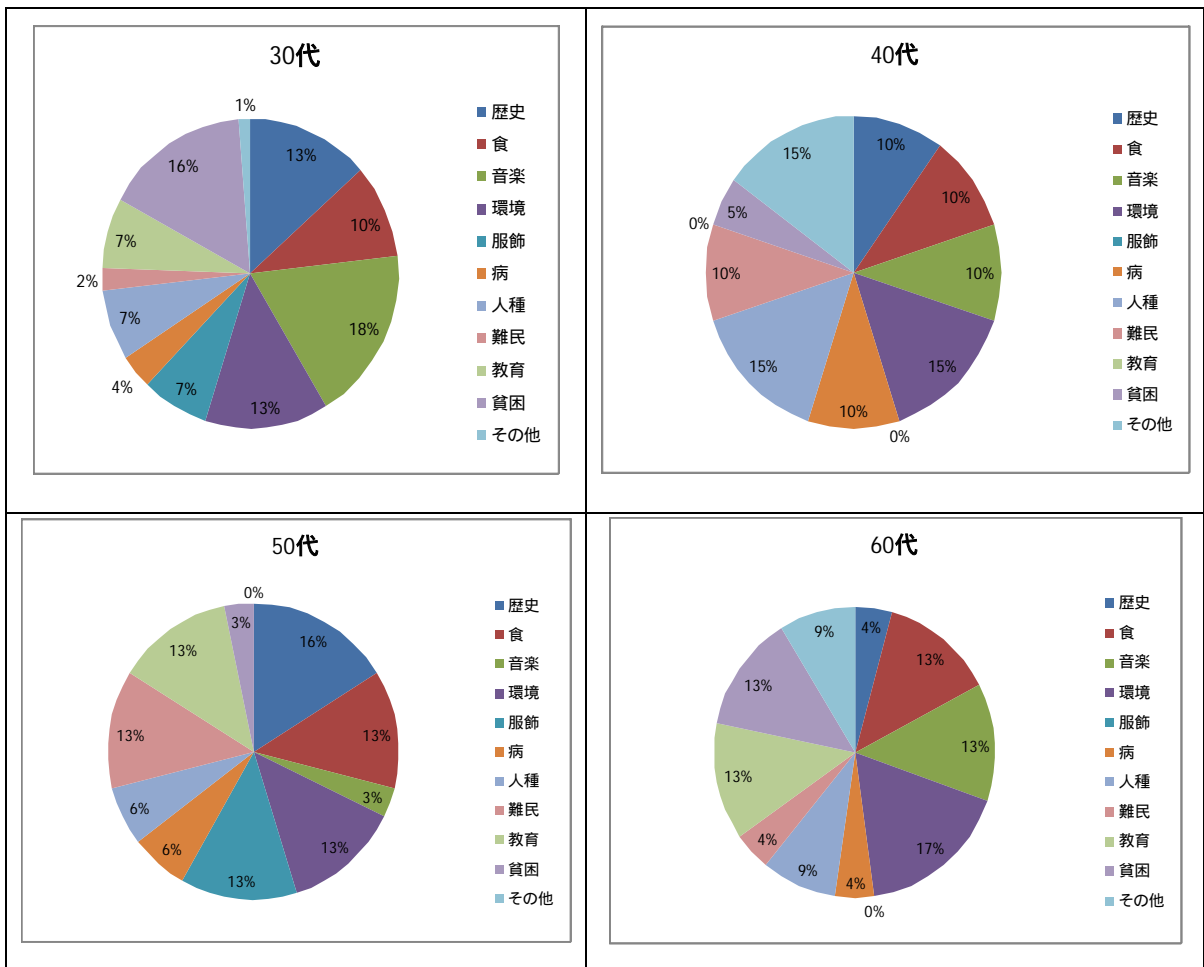
<表 8> 年代別 関心内容(上位3項目)

	1	2	3
10代	環境	難民・音楽	
20代	歴史	貧困	環境
30代	音楽	貧困	歴史・環境
40代	環境・人種・その他		
50代	歴史	食・環境・服飾・難民・教	
60代	環境	食・教育・貧困	

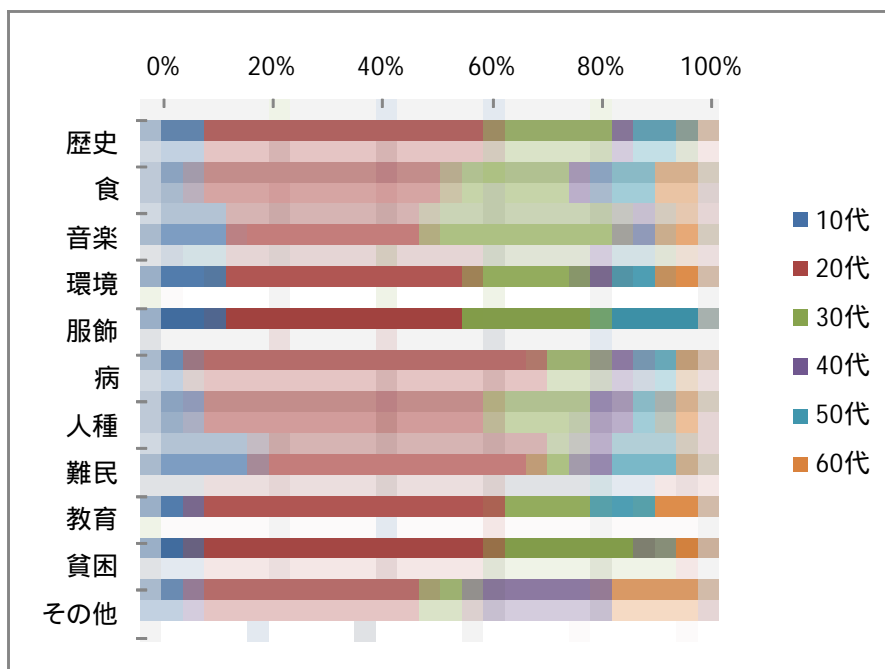
<図 11> 年代別 選択数割合

年代ごとの選択述べ数に対して、各項目がどれだけを占めているかをあらわしている。





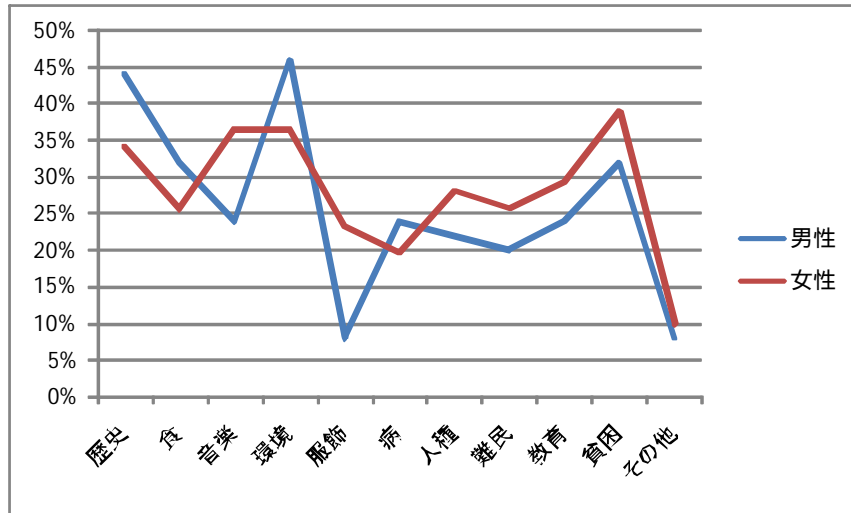
<図 12> 年代別 選択数割合 (項目)



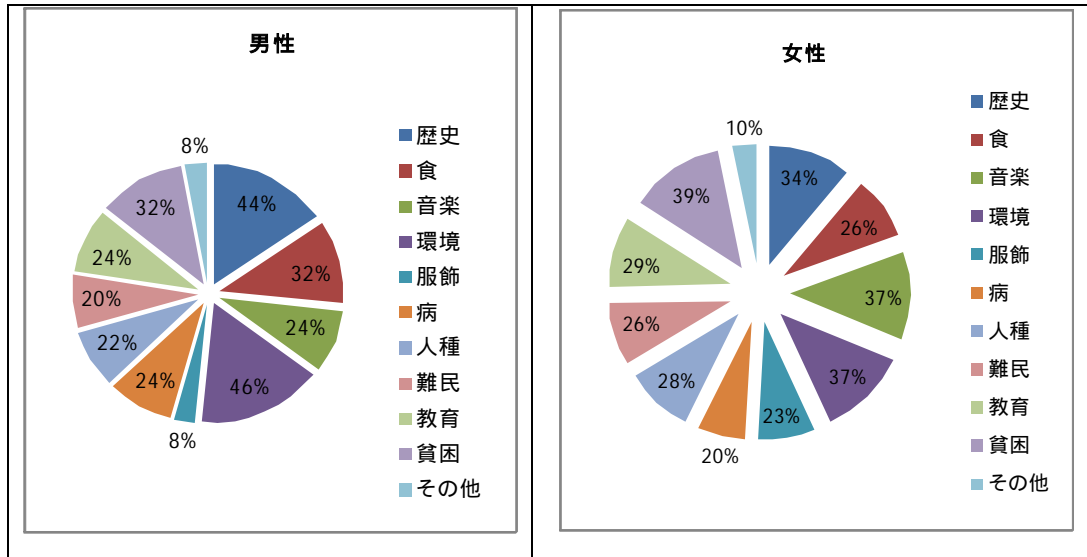
(2) 男女別関心内容

男女別では、全体的にほぼ同じような選択傾向がみられるものの、「服飾」や「音楽」については男性よりも女性のほうがより多く選択しているという違いがみられた。

<図 13> 男女別 項目選択傾向



<図 14> 男女別 選択割合



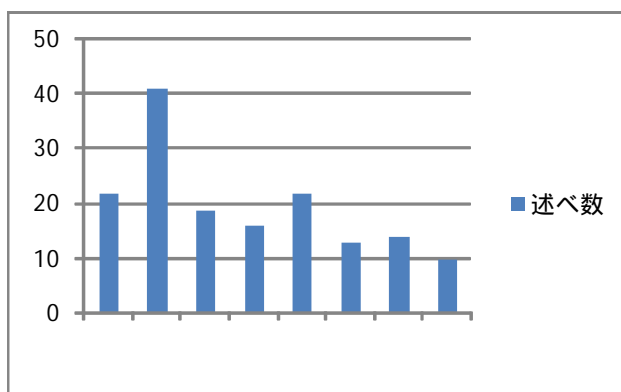
4. 映画・テレビ番組を観たことによる行動

調査では、映画やテレビ番組を観たことによる行動の変化も問うた。「映画・テレビ番組の内容を周りの人に話した」という選択が最も多く、次に「アフリカの映画やテレビ番組を周りに勧めた」「アフリカ関係のイベントに参加した」という回答が続く。「講演会で話した」「映画祭を主催した」という積極的な行動もみられ、何らかの形で発信者となっていることが伺える。「イベントに参加した」と回答した 22 名中 17 名が参加したイベントとしてアフリカンフェスタを挙げている。

<図 15>行動内容

【選択項目】

- アフリカの映画・テレビ番組を周りの人に勧めた
- アフリカの映画・テレビ番組の内容を周りの人に話した
- アフリカ関連のニュースを観るようになった
- アフリカ関係のNGOの活動に参加した
- アフリカ関係のイベントに参加した
- アフリカ関係の本を読んだ
- 実際にアフリカに行く予定/行ってきた
- その他



(1) 年代別結果

上記全体の結果を年代別にみても、以下のようになった。表中の()内数字は、それぞれの回答者数をあらわしている。

回答者数のばらつきがあり、単純な比較は難しいが、「アフリカの映画・テレビ番組を周りの人に勧める」よりも、「アフリカ関係のイベントに参加した」ほうが多い40代、「アフリカの映画・テレビ番組の内容を周りの人に話した」ことが突出する30代などの特徴が読み取れることは興味深い。

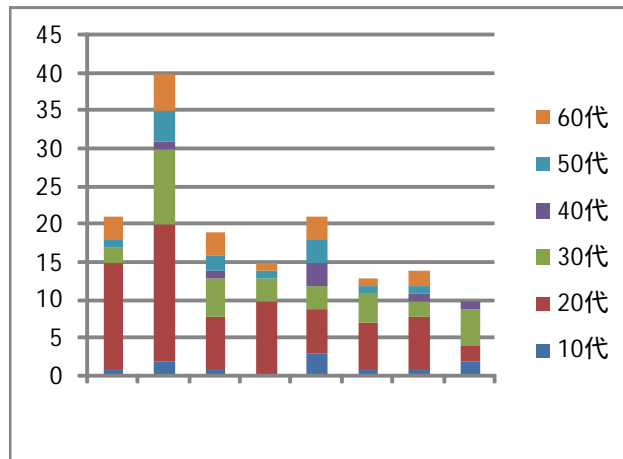
<表 9> 行動内容 年代別結果

年代	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10代 (10)	1	2	1	0	3	1	1	2	
20代 (66)	14	18	7	10	6	6	7	2	
30代 (33)	2	10	5	3	3	4	2	5	
40代 (17)	0	1	1	0	3	0	1	1	
50代 (13)	1	4	2	1	3	1	1	0	
60代 (10)	3	5	3	1	3	1	2	0	

<図 16> 行動内容 年代別結果

【選択項目】

- アフリカの映画・テレビ番組を周りの人に勧めた
- アフリカの映画・テレビ番組の内容を周りの人に話した
- アフリカ関連のニュースを観るようになった
- アフリカ関係のNGOの活動に参加した
- アフリカ関係のイベントに参加した
- アフリカ関係の本を読んだ
- 実際にアフリカに行く予定/行ってきた
- その他



(2) 男女別結果

男女別の結果は次のとおりである。回答者数は女性のほうが約 2 倍であるため、その選択述べ数は参考程度にしかならない。しかし、選択数を回答者数で割った選択割合を比較すると、次のような特徴が読み取れる。男女ともに「アフリカ映画・テレビ番組の内容を周りの人に話した」という項目はまったく同率であったが、実際の積極的な行動内容としてあげられる「NGOの活動に参加した」と「イベントに参加した」では男女の割合が逆転する結果となった。具体的には、「NICE (3) でボランティアをした」「ポレポレクラブ (4) に参加した」(共に男性)、「アフリカンフェスタに参加」(女性、12 名)といったものである。

3 特定非営利活動法人 NICE(日本国際ワークキャンプセンター)

日本を中心に、各種ワークキャンプを主催するNGO。

参考URL : <http://www.nice1.gr.jp/index.html>

4 Tanzania Pole Pole Club

東アフリカのタンザニアで植林活動に取り組んでいる市民グループ

参考URL : <http://polepoleclub.ld.infoseek.co.jp/>

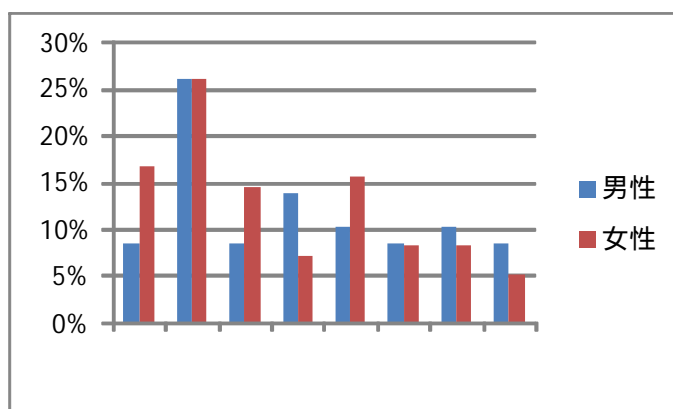
<表 10> 行動内容 男女別結果 (選択数総数)

男性(57)	5	15	5	8	6	5	6	5
女性(95)	16	25	14	7	15	8	8	5

<図 17> 行動内容 男女別結果 (回答者数に対する各項目の選択割合)

【選択項目】

- アフリカの映画・テレビ番組を周りの人に勧めた
- アフリカの映画・テレビ番組の内容を周りの人に話した
- アフリカ関連のニュースを観るようになった
- アフリカ関係のNGOの活動に参加した
- アフリカ関係のイベントに参加した
- アフリカ関係の本を読んだ
- 実際にアフリカに行く予定/行ってきた
- その他



(3) 渡航経験別結果

行動内容の項目に関しては、アフリカへの渡航経験の有無によって違いがあるかどうかということもみてみた。8項目中7項目で、渡航経験「有」のほうが「無」を上回り、唯一、「アフリカ関係のNGO活動に参加した」という項目のみ、わずかに「無」が「有」を上回っている。

全体として、アフリカへの渡航経験が先にあった人のほうが、視聴後に何らかの行動を起こしていた。実際に訪れていることでアフリカ関係の情報に注意を向けやすいという理由も考えられる。

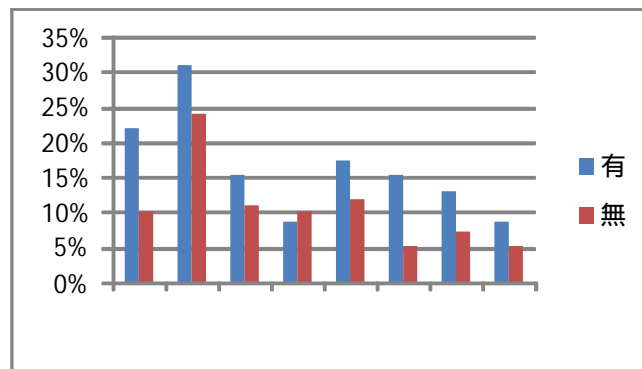
<表 11> 行動内容 渡航経験別 (選択総数)

有(45)	10	14	7	4	8	7	6	4
無(107)	11	26	12	11	13	6	8	6

<図 18> 行動内容 渡航経験別

【選択項目】

- アフリカの映画・テレビ番組を周りの人に勧めた
- アフリカの映画・テレビ番組の内容を周りの人に話した
- アフリカ関連のニュースを観るようになった
- アフリカ関係のNGOの活動に参加した
- アフリカ関係のイベントに参加した
- アフリカ関係の本を読んだ
- 実際にアフリカに行く予定/行ってきた
- その他



5. アフリカ題材の映像に対する意見、希望

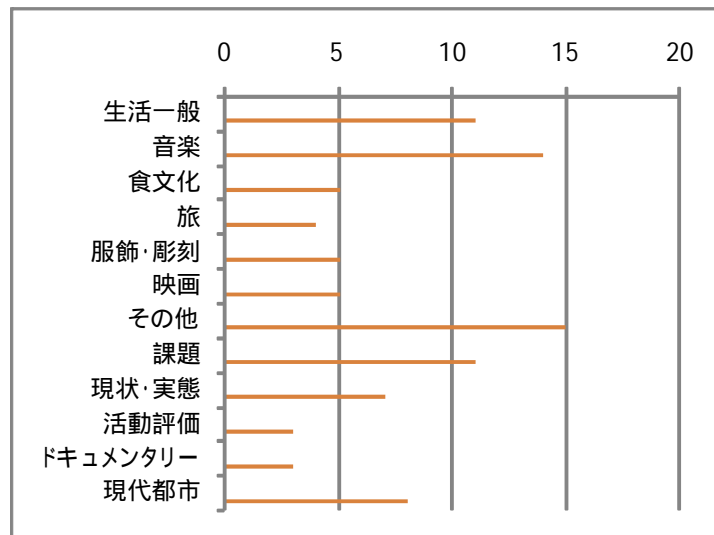
アフリカ題材の映像に対して、どのようなことが問題だと思うか、今後どのような内容のものが観たいかなどの意見を記述式で尋ねた。もっとも多くみられたのは、アフリカのマイナスな部分ばかり強調されたものではなく、もっと文化やふだんの生活についてみたいという意見だった。「アフリカで活躍する日本人」「日本がやっていることは本当にアフリカのためになっているのか」など、「アフリカと日本のつながり」を求める声もあった。また、貧困や飢餓問題に対しては、「日本社会にきっちりアピールしてほしい」という意見がある一方で、「貧困や HIV 問題ではなく、一般の人々の生活のほうが見たい」という意見も目立ち、内容には双方が求められているためにそのバランスをいかにとるか、が問題と考えられる。さらに、「日本人はヨーロッパを通したアフリカしかみていない」「アフリカ人によるものが見たい」など、視点の変化を求める声もあった。

映像の内容に対する多様な意見は大きく 3 つの分野に分けられる。一つ目は、「生活・文化」であり、これはさらに「食」や「音楽」といった分野に細かくすることができる。二つ目は「社会問題」についてで、三つ目にアフリカ社会の「発展」の分野である。これらの分野をさらに細かく 12 項目(その他含む)に分け、その詳細を分析してみる。12 項目の中では、「その他」を除くと、「音楽」「課題」「生活一般」の順に意見傾向がみられた。表中の()内数字は、各傾向の選択述べ数である。また、記述の中に複数の傾向が含まれている場合は、それぞれを分けてカウントした。

<表 12> 意見傾向（選択数）

傾向	項目	数
文化 (58)	生活一般	11
	音楽	14
	食文化	5
	旅	4
	服飾・彫刻	5
	映画	5
	その他	15
社会 問題 (24)	課題	11
	現状・実態	7
	活動評価	3
	ドキュメンタリー	3
発展	現代都市	8

<図 19>意見傾向（選択数）



(1) 生活・文化

この分野に対しては、61 件もの意見が寄せられた。ここではそれをさらに、「生活」「音楽」「食」「旅」「文化」「その他」の 6 項目に分けて分析をしてみる。項目「その他」には、「宗教性」や「明るい話題のもの」、「それぞれの国の違いを紹介してほしい」という声がある。その他 5 項目の中では、音楽に関するものを求める声をもっとも多かった。とくに、現地の音楽ライブやプロモーションビデオなどへの期待が目立った。アフリカを題材とした映像により高まった項目としては、「音楽」は 30 代が一番選択されていたが（3. 参考）、全体としてはやや少なめだった。しかし、今後観たい映像として「音楽」が多く期待されているということは、これからの映像作成にあたって「音楽」が重要な要素となるのだと考えられる。それは、バックグラウンドミュージックというだけでなく、内容として求められるということである。

また、次に目立ったのが「生活全般を知りたい」という声であった。アフリカの家族であったり、一般的な生活であったりと、より現地の人々に密着したものである。さらに、ファッションやポップカルチャーの要望が次いだ。

<表 13> 期待する映像内容 (生活・文化)

〔音楽に興味 (14)〕
・ 音楽などの文化的な映像がみたい。問題だけだとつらくてチャンネルを変えてしまう。
・ 音楽(ライブ)一般的な生活ぶりを歴史を含めて見たい。
・ アフリカの映像をあまりみないのは「内容が重そう」だから。なので、音楽、ダンスを含めたテレビ映像が見たい。
・ 音楽のプロモーションビデオとかおもしろいのが多いのでぜひ見たい。ダンスなど。
・ 音楽もの
・ 音楽系。
・ 現地での音楽ライブもよう。
・ 音楽やダンスが中心の映像。
・ 特に音楽、文化の関するもの。
・ 民族音楽のライブなど。
・ 日本にいるアフリカ人による音楽をもっと聴きたい。
・ アフリカのアーティストのビデオクリップ集などの音楽番組。
・ 発展している都市の若者文化、音楽などを取り上げている番組。サバンナ、貧困問題ではなく。
・ 特に音楽、文化の関するもの。
〔生活全般を知りたい (11)〕
・ 一つの問題でなく日常のアフリカを。近代化していない故昔の持続的な生活から日本はエコに繋がるものを見たい
・ アフリカ各国の1日の生活を知りたい
・ 特別な貧困やHIV問題でなく一般の人々の暮らしを紹介するドキュメンタリーをもっとやってほしい。知らない国がたくさんあるので違いを紹介する番組を放送してほしい。
・ 貧困問題、自然の映像が多いが、一般人の都市での生活について関心がある。
・ ダンスなどの生活に関したのもの。アフリカンフェスタで山田耕平さんの講演を聴いて更に興味がでたので、TVでももっと取り上げてほしい。
・ モロッコ。人々の活気あふれる生活力。行ってみたい ヨーロッパに近いし、行きやすいのでは。
・ もっとアフリカの一般市民をフォーカスしたドキュメントを作成してほしい。
・ 現地の生活に密着。
・ 人々の暮らし。
・ もっとアフリカの一般市民をフォーカスしたドキュメントを作成してほしい。
・ アフリカの家族のことについてもっと知りたいのでそういう映像を見たいです。
〔食文化 (5)〕
・ アフリカの食を題材にしたもの。ただゲテモノ的な紹介ではなく日本との共通点等新たな理解が深まるもの。
・ 食を題材としたものが見たい。
・ セネガル、スーダン、エリトリアなどのよく取り上げられる地域以外の新たなアフリカの歴史、食文化を取り上げてほしい。
・ 料理番組、
・ 食べ物の番組。
〔文化(服飾・彫刻など) (5)〕
・ アフリカの歴史についてテレビで
・ 服飾、髪型などのルーツや紹介など
・ アフリカンファッションショー。アフリカで活躍している日本人。
・ ドキュメンタリー、伝統文化について
・ アフリカのメディアのこと、ポップカルチャーのことを紹介してほしい。

〔映画 (5)〕
・ アフリカ人によるアフリカの映画
・ 現代的なものを紹介して欲しい。例)「アルーンド」(ケニア)アフリカ映画祭で上映します。
・ アフリカ人によるプロジェクトでとられた映画がみたい。日本人やアメリカ人がどういう風に見たいかじゃなく、ちょっとわかんなくてもいいからアフリカ人のアフリカ映画！これが見てみたい。メッセージ性の強いもの。ストレートなもの。
・ コメディ。「アルーンド」のような。
・ 普通の映画(貧困のドキュメンタリーはもういい)

〔旅(4)〕
・ 観光ガイドみたいな番組。危ない情報が多いため。
・ 旅行番組。
・ 海外になかなか行けない人のためにも、旅行した気分になれる内容が良い。
・ 自然や世界遺産をもっと見てみたい。

〔その他 (15)〕
・ 明るいもの。希望がみえないと遠く感じてしまう。
・ 大学のゼミ内で教材になるもの。一つの問題でなく日常のアフリカを。近代化していない故昔の持続的な生活から日本はエコに繋がるものを見いだせる。
・ アフリカという枠にとらわれずそれぞれの国、人などもっと切り込んで深いところが見たい。援助するだけでなくビジネスとして社会起業家能古となど日本での報道が少ない。
・ 特別な貧困やHIV問題でなく一般の人々の暮らしを紹介するドキュメンタリーをもっとやってほしい。知らない国がたくさんあるので違いを紹介する番組を放送してほしい。
・ 映画、テレビをみてアフリカ人の文化を知る事によってコミュニケーションの方法を理解したり、言語の違いを意識
・ 日本人はアフリカの歴史を知らなすぎる。ヨーロッパを通したアフリカしか知らない。アフリカを理解するならEUを通さずに直接ゼロから始めるべき！
・ 元々、自然に興味がありテレビは見えていたが実際にフェスタに参加するほうが興味がわく。
・ アフリカ情報をもっと簡単に得られるようになると良い。
・ よく「アフリカ」とまとめてしまうが、地理的、文化的なアフリカの多様性を分けて報道してほしい。
・ 自然、絶滅危惧種動物、遺跡とか。
・ アフリカ人によるアフリカ人の題材のもの あるかもしれないけど、ネットで探すまでではない。
・ 西アフリカに関する情報が少ないので増やしてほしい。もっとアフリカの良いところをテレビで写してほしい。
・ アフリカ各国の宗教性
・ want to watch Nature(Animals, Plants), programme. アフリカについての映像がもっと多くても良い。Negative side (紛争)ばかりなので、positive sideに焦点をあててほしい。
・ 同情あある映像は好きじゃない(たまには明るい話題も)。

(2) 社会問題

意見傾向全体が「明るい話題」を求め中、貧困問題や教育事情などの社会問題に興味を占める意見も 24 件あった。しかし、ただそれらの問題に焦点を当てるだけでなく、わかりやすさや正しさが求められている。

次に、アフリカ各国の政治情勢に関心をもっている意見も目立った。一般のニュースでも扱われることが少ないアフリカの政治状況を、もっと知らせてほしいという機会増加の希望もあった。

また、数は少ないものの貴重な意見として、アフリカでの支援活動に対する評価を映像として求めるものがあつた。アフリカ理解プロジェクトの 2006 年に「ほっとけない世界の貧しさキャンペーン インパクト調査」(4 頁参照)の結果として「「キャンペーンを知っている」と答えた回答者のおよそ四分の一が、本キャンペーンがアドボカシーを主目的とした活動であると認識していなかった」ということを明らかにして

いる。本項目で、「募金のゆくえ」を知りたい、という意見がある背景には、こうしたアドボカシーキャンペーン活動があることも十分に考えられる。ここから、支援活動の評価をおこなう際には、現地の映像を用いること検討すべきであろう。

<表 14> 期待する映像内容（社会問題）

[課題 (11)]
・ 教育と医療。現状。新しい事。今後の発展。
・ 歴史、医療、難民問題、教育、貧困問題についての放送や映画を増やしてほしい。
・ 教育の面で、様々な問題をかかえて学校に通えないことなどの理解をさらに深めるような番組。
・ 子どもたちの教育についての番組。
・ 子供たちの映像が見たい。
・ 貧しい子供たちのドキュメンタリー
・ アフリカの子どもたちの病気、食糧難についての正しい情報をもっと日本に入ってきてほしいと思う。
・ 貧困問題を分かりやすく伝える番組。教育の場を見れるようなもの。
・ 地雷について/アフリカ全土にわたる問題、もっと取り上げて日本人たちに紹介してほしい。
・ 人の暮らし、人権、貧困、ルボ、南北問題、日本社会にきっちりとアピールするようなものを作ってほしい。
・ 難民の背景
・ サハラ砂漠の緑化に興味がある。
[現状・実態 (7)]
・ 紛争のあった国などのその後の様子。
・ 西サハラの独立問題の状況について歴史など(エルフリ活動とか)。南アフリカ、アパルトヘイト、ジンバブエ、大統領など。
・ もっと現地の情報を取り上げてほしい。例)ケニアの政治情勢。
・ 各国の現状をもっと見せては？たくさん国があるが、情報少ない。
・ BBCやCNNのような社会派な特集を日本でももっとしてほしい。
・ アフリカ情報をもっと簡単に得られるようになると良い。
・ TICAD、G8あるので今年は大切な年。もっとアフリカを取り上げてほしい。実態がわかる。
[活動評価 (3)]
・ 募金のゆくえ。 なかなか信用できない面がある。
・ 民族とか誰もが観やすいメディアで、アフリカでNPOとかで行われる活動とか現実とかを知れるといいかもしれない。そういう仕事をしている友人は何人かいるので。
・ 日本人が行っている事が本当に彼らのためになっているのか
[ドキュメンタリー (3)]
・ TVでドキュメンタリーがやってたら見ます。
・ 現実的なドキュメンタリー。
・ ドキュメンタリー(アフリカの魅力は?)

(3) 発展

この分野は、「アフリカの発展している部分について観たい」という意見傾向である。これまでの映像は「貧しい部分」「negative side」が占めていたとし、アフリカの都市や現代的なものを取り上げて欲しいという声である。アフリカ諸国出身の方からはこの意見が目立った。

<表 15> 期待する映像内容（発展）

〔現代都市(8)〕
・ アフリカという枠にとらわれずそれぞれの国、人などもっと切り込んで深いところが見たい。援助するだけでなくビジネスとして社会起業家のことなど日本での報道が少ない。
・ ジョーゼフ・コンラッドに興味があり小説の舞台がコンゴでそこからアフリカに興味出た。経済ドキュメンタリー。どういう仕組みで社会が回っているか。
・ 都市部の発達している所。発展していない面についての情報が多いので両極端からアフリカを見られるとよい。
・ 貧困問題、自然の映像が多いが、一般人の都市での生活について関心がある。
・ アフリカ内の発展した都市の情報などが見たい。
・ 発展している都市の若者文化、音楽などを取り上げている番組。サバンナ、貧困問題ではなく。
・ 現代的なものを紹介して欲しい。例)「アルーンド」(ケニア)アフリカ映画祭で上映します。
・ films based on Africa show the negative side (war, refugee, orphans, famine etc...) but films/documentary should also show other aspects of Africa such as its Africa's music, science & technology, etc.

・ 考察 分析結果を通して

今回の調査目的は、「アフリカを題材とした具体的な視聴覚素材について、対象者の視聴の有無や関心の方向性によるそのインパクトを調査すること」であった。その目的に対し、これまでの分析結果をふまえ、以下考察を述べてみたいと思う。

〔視点1 :映像を観たことによるアフリカへの関心の変化・内容・指向性〕

調査場所がアフリカンフェスタという、アフリカにもともと関心のある人々の集まる場所だったこともあり、視聴有無は事前の予想通り「有」が多かった。また、「視聴によってアフリカへの関心が高まったか」という問いも、約90%の人が「yes」と答えている。もともとの関心の高さはあるにしても、それがさらなる関心へとつながっているのであれば、アフリカの映像がもたらすインパクトはある、と考えられる。

しかし、こうした中で約10%の人々が「高まらなかった」と答えていることは着目すべき点であろう。その理由はほとんど記述されていなかったのだが、調査者が口頭で聞いたところによると、「マイナスイメージばかりだから」「自分たちではどうしようもないことだから」ということであった。この意見は、「関心が高まった」という人々からの意見にも見られる内容である。ここから、「負の側面ばかりの映像という印象」や「アフリカを遠い存在として感じる」という、現在のアフリカ映像が持つ問題の改善は、映像作成における課題であると考えられる。5. でみたアフリカ映像への期待(記述)にあった、「希望をもてる映像を」「明るいものが観たい」という意見は、この課題を解く鍵となるであろう。

「関心が高まった」という人々の意見の中では、「環境」「歴史」「貧困」といった項目が多く選択された。これは、現在のアフリカ関連の映像が映し出す内容を反映している。もっとも多く観られている映画『ライオンキング』はアフリカの自然界が舞台となっているし、『ホテル・ルワンダ』は、実際に起こった1994年のルワンダ大虐殺を背景にしたストーリーである。また、『ブラッドダイヤモンド』はシエラレオネの紛争・貧困に結びついた内容である。テレビ番組の『NHK世界遺産』では、紹介される多くが文化遺産に指定されている(文化34、自然9、複合4、無形1)。これらの映像は、「環境」や「歴史」という項目に結びついていると考えられる。『NHK世界遺産』の映像には、モロッコの古代都市やマリの旧市街など、遺産とともに暮らす人々の伝統的な生活を知ることできる。しかし、「生活一般を知りたい」という希望

が多く寄せられていることをふまえれば、その希望には十分に応えられていないことがわかる。現状では映像がアフリカへの関心を喚起してはいるものの、その内容には偏りがあり、求められるテーマがまだまだあるということが読み取れる。「マイナスイメージが多い」という意見を持つ人がいると同時に、「音楽」や「服飾」へ関心を示す人もいる点を尊重し、映像には多様な場面や舞台を持つことが求められているのではないかと考える。

〔視点 2 : 映像を観たことによる行動の変化〕

本調査では、アフリカを題材とした映像の視聴有無・関心度合だけでなく、その後何をしたか、という実質的なインパクトも問うた。その行動内容では、「映像内容を周りの人に話した」「映画やテレビ番組を周りの人に勧めた」という回答が多かった。一人ひとりが、映像から得た感想や関心を周りの人に話していくということは、アフリカの認知度を高めるにあたり、地道ながらも確実に大切なことであろう。そうした機会を増やすためにも、全体的なアフリカ映像の視聴機会を増やすことが求められるのではないだろうか。

また、「イベントに参加した」という声も多く、その大部分がアフリカンフェスタへの来場につながっていたという結果がある。「NGOの活動に参加する」ことよりも多いというこの結果は、より簡単で気軽に参加できるイベントの意義を示すものではないかと考える。

さらに、「映画祭を主催した」「講演会で話した」といった積極的な意見もあり、映像を観たことが自身への大きなインパクトとなった可能性が読み取れた。より大きな行動としては、「実際にアフリカに行った/行く」があるが、それはこれまでの渡航経験が「無」の人にも選択されており、映像がきっかけとなっていることがわかる。こうした人々もいることから、映像には「現地の正しい情報を」や「西アフリカの情報が少ないのもっとほしい」といった意見を考慮することが求められる。

〔視点 3 : 情報の発信源〕

とくに映画に関し、「アフリカの人が発信するものが観たい」という意見も目立った(口頭問答を含める)。事実、今回選択項目にあげた映画(近年の日本公開作品)はすべてに欧米が絡んでいる。舞台がアフリカ、というだけで「アフリカが発信している」というものが少ない現状である。こうした中で、先に記述した「シネマアフリカ」はアフリカの人々によって作成された映画を上映しており、反響をよんでいる。本調査においても、「アフリカの人が作った映画をやるそうなので観に行く」という方もいらした。これからのアフリカの映像には、テーマの多様性に加えて、発信者が現地の人であることも重要な要素であるといえよう。

以上、3つの視点により、本調査に関する総括的な考察を述べた。

本調査は、アフリカンフェスタという特殊な場で行われた調査であり、回答者数も150名弱であるから、この結果をそのまま一般の意見として捉えることはできない。また、男女別・年代別の各項目割合等も、人数にばらつきがあり、その比較が妥当であったかどうかは議論の余地を残すものとなった。

しかし、このような調査は、アフリカに関する映像が増えてきたいまだからこそ可能となり、意義のあ

るものだと考える。2004年にアフリカ理解プロジェクトが実施した『アフリカ教材ニーズ調査』では、教材には「普通の人の日常の様子」「淡々とかかれた映像：アフリカ＝かわいそうの図式にならないもの」が必要、といったコメントが寄せられていた(5)。今回の調査も同様の意見がみられたが、それはこの調査が「アフリカのポジティブな面の情報が欲しいという傾向」から更に進んだ視点を提供するものとなったのではないかと考える。本調査で得られたアフリカを題材とした映像に対する回答者の希望の数々は、今後、アフリカの映像を提供する人々に有用な情報であると考えている。これを機に、アフリカが日本においてますます身近な地域として扱われ、この地域への関心が高まり、理解が深まっていくことを願ってやまない。

5 『アフリカ教材ニーズ調査』

アフリカ理解プロジェクトが2004年に実施した、アフリカに関心のある人たちがどのような教材を求めているかを問うた調査。

参考URL：<http://africa-rikai.net/teachers/reports.html>

参考文献：(特活)開発教育協会『開発教育』50号、2004年。

・調査実施・協力者

調査票和文作成：山崎瑛莉

調査表英文作成：田中美結

調査実施者：Ouattara Amadou、飯島卓也、石黒さくら、石田里沙、上杉恵理子、田端春奈、田端麻美、天馬千穂、寺澤雪江、二上昌子、浜中咲子、宮崎佳代子、山崎瑛莉

調査分析協力者：田端春奈、田端麻美

本調査にご協力いただいた来場者のみなさま、さまざまなご意見をくださったアフリカ理解プロジェクトサポーターのみなさま、そしてスタッフのみなさまに心より感謝申し上げます。

【参考】本調査で取り上げた映画・テレビ番組詳細

番組名	内容・詳細	放映時間
NHK 世界遺産	とっておき世界遺産	毎週火曜 22:45～23:00
	探検ロマン 世界遺産	毎週土曜 20:00～20:43
	シリーズ 世界遺産100	月～金 10:55～11:00
NHK BShi	ドキュメンタリーやNHK番組の再放送など。	
TBS 世界ウルルン滞在記	世界の国々の日常を、リポーターが経験して伝える旅行記。	毎週日曜 22:00～
フジテレビ あいのり	恋愛を求める6人の若者を乗せたバスが世界中を旅する。 アフリカへの旅をきっかけに学校建設・募金活動などを実施。	毎週月曜 22:00～22:30

『TBS 世界ウルルン滞在記』は2008年9月に放送終了。

	ホテルルワンダ (2004) HOTEL RWANDA	ツォツィ (2005) TSOTSI	輝く夜明けに向かって (2006) CATCH A FIRE
上映時間	122分	95分	101分
製作国	イギリス/イタリア/南アフリカ	南アフリカ/イギリス	フランス/イギリス/南アフリカ/アメリカ
公開情報	劇場公開:メディア・スーツ=インターフィルム	劇場公開:日活=インターフィルム	劇場公開:UIP
初公開年月	2006/1/14	2007/4/14	2007/1/27
宣伝句	「愛する家族を守りたい。」 ただ一つの強い思いが、1200人の命を救った・・・。	拳銃を持つその手で、小さな命を拾った。	激動と混乱の南アフリカ 無実の罪を着せられた男、パトリック・チャムソ 彼は“自由”のために立ち上がった・・・
舞台	ルワンダ	南アフリカ	南アフリカ
その他		映倫 R-15	
	約束の旅路 (2005) VA VIS ET DEVIENS	ブラッドダイヤモンド(2006) BLOOD DIAMOND	遠い夜明け (1987) CRY FREEDOM
上映時間	149分	143分	158分
製作国	フランス	アメリカ	イギリス
公開情報	劇場公開:カフェグラーヴ=ムヴィオラ	劇場公開:ワーナー	劇場公開:UIP
初公開年月	2007/3/10	2007/4/7	1988/02
宣伝句	行け、生きる、生まれ変われ	ダイヤモンドの価値を決める“4つのC” - color (色) cut (カット) clarity (透明度) carat (カラット) しかし、実は5つめのC<conflict>が存在する ことを、あなたは知る [自由][家族][真実]-彼らはダイヤモンド それぞれ違う輝きを見た。	
舞台	エチオピア	シエラレオネ	南アフリカ
その他			2005年7月 DVD発売
	ルワンダの涙 (2005) SHOOTING DOGS BEYOND THE GATES	母たちの村 (2004) MOOLAA DE	ダーウィンの悪夢 (2004) DARWIN'S NIGHTMARE
上映時間	115分	124分	112分
製作国	イギリス/ドイツ	フランス/セネガル	オーストリア/ベルギー/フランス
公開情報	劇場公開:エイベックス・エンターテインメント=シナジー	劇場公開:アルシネテラン	劇場公開:ピタース・エンド
初公開年月	2007/1/27	2006/6/17	2006/12/23
宣伝句	その悲しみは 心を濡らした		一匹の魚から始まる 悪夢のグローバルゼーション
舞台	ルワンダ	セネガル	タンザニア
その他			
	ナイロビの蜂 (2005) THE CONSTANT GARDENAER	ラストキング・オブ・スコットランド(2006) THE LAST KING OF SCOTLAND	ライオン・キング (1994) THE LION KING
上映時間	128分	125分	87分
製作国	イギリス	アメリカ/イギリス	アメリカ
公開情報	劇場公開:ギャガ・コミュニケーションズ	劇場公開:FOX	劇場公開:ブエナ
初公開年月	2006/5/13	2007/3/10	1994/07
宣伝句	地の果てで、やっと君に帰る。	何よりも恐ろしいのは、人間の本性	
舞台	ケニア	ウガンダ	
その他		映倫 R-15 / アカデミー賞主演男優賞受賞	
	キリクと魔女 (1998) KIRIOU ET LA SORCIERE		
上映時間	71分		
製作国	フランス		
公開情報	劇場公開:ブエナ		
初公開年月	1994/07		
宣伝句	なぜ? どうして? 小さな男の子の大きな好奇心が 世界を変えた。		
舞台			
その他			

参考URL: 映画データベース all cinema <http://www.allcinema.net>, 各映画公式ホームページ, NHK公式ホームページ (<http://www.nhk.or.jp/sekaisan/>), フジテレビ公式ホームページ (<http://www.fujitv.co.jp/ainori/index.html>), TBS公式ホームページ (<http://www.tbs.co.jp/program/mbs.ururun.html>)